

## 3

## 文化づくり

1学期は、5月20日に小中合同体育祭を行いました。この体育祭は河合小中の9学年が揃う唯一の機会です。〈スタートライン～河合っ子346人のきずなのはじまり～〉のスローガンのもと、児童生徒がかかわり合いの中で、試行錯誤しながら自分たちの手で演技を創り上げ、共に成長していく姿を目指しました。〈河合っ子346人のきずな〉を深めるため、今年度は1～9学年すべてを含めた12のたてわり班をつくり、その中で異学年のペアを組み、さらに練習の期間だけでなく、体育祭当日も班ごとのテントに分かれて過ごしました。これらは全く初めての試みで、手探りの部分も多くありましたが、児童生徒は互いに班の仲間やペアの相手を応援し、競技の出番以外の時間にも自然にふれあう姿が見られました。当日のプログラムは、体育的な演技発表を主とする第1部（テーマ：「魅せる」）と、小中のつながりを求める第2部（テーマ：「かかわり」）とすることで、ねらいを明確にして取り組みました。全9学年が参加する演技では、例年の綱引きから「5色綱引き」に変更することで、より作戦を立てやすく、応援に熱の入る競技となりました。その他、児童生徒会が中心となり、9学年のかかわりを深めるために、メッセージの交換やオリエンテーションでのアイスブレイク、エール交換の練習など、小中がつながる場面を多く設定しました。特にたてわり班での活動は、多くの児童生徒にとって、他者とのかかわりの中でこの体育祭を創り上げたという達成感や充実感を得られるものとなったのではないかと思います。

合同体育祭での学びを〈スタートライン〉として捉え、次の行事や学校生活へと生かしていくために、2学期には10月2日を「小中特交流の日」として、「たてわりふれあい講座」を行いました。ねらいを「小中特の児童生徒が互いの良さを認め合い、絆を深める」「異学年による体験活動を通して、新たな学びを得る」とし、合同体育祭のたてわり班のメンバーに特別支援学校の児童生徒が加わり、12の講座に分かれて実施しました。内容は「調理」「しおり作り」「ドミノ」「手形アート」「ポッチャ」「グランドゴルフ」などで、河合小、河合中、特別支援学校の3校を会場として、2時間程度の活動を行いました。講座内容の決定に際して、8・9年生が「自分たちの班にふさわしい活動とは何か」と検討・発案することで、主体的に講座に取り組めるようにしました。そして、1～9年生全員が無理なく参加でき、学びが得られる活動とするため、会場や道具、進め方について慎重に検討しながら実施しました。昨年度までは4～9年生と1～3年生は別の活動をおこなっていましたが、今年度は9学年で同じ時間を過ごし、合同体育祭で築いた絆をより深めることができました。また、地域の方々に直接指導をいただいたり（グランドゴルフ）、講座と一緒に参加していただいたり、河合地区の方々とのつながりを大切にしたい行事となりました。

今年度も、学年や学校の枠を超えた出会いやかかわり、豊かな学びが得られる機会を設定してきました。今後も、児童生徒が互いにかかわり合いながら企画・実践し、得た成功や失敗の経験に次に生かすことができるような機会を積み重ね、それらを継続することで、物事に主体的に向き合う力を伸ばすことができる取組を推進していきたいと思えます。



## 4

## ふれあいの日

今年度も学期に1日ずつ5年生が中学校舎に通う「ふれあいの日」を実施しました。

1学期は、生活交流を主とし、中学校舎案内や給食の準備の仕方、合同掃除、スポ少&部活動の行進・壮行会に参加しました。また、普段から中学校教師による「英語」や「家庭科」の授業を受けていますが、この日は「算数」と「音楽」の授業を受けました。6～9年生はオープンスクールとし、保護者参観を実施しました。

2学期は、6～9年生との交流授業を主として、9年生と「合同道徳」、8年生と「合同体育」、6年生と「総合」で「発見」旅行報告会を行いました。また、この日は5～9年生のオープンスクールとし、PTA親子講演会が実施され、福永拓司氏による一人芝居「君をいじめから守る」を鑑賞しました。

3学期は、中学校教師による「社会」と6年生との交流授業を行いました。中学校の生活や学習を知り体験することで、中学校舎へのスムーズな移行ができ、小中一貫の学びを深める機会となっています。

「ふれあいの日」を核とした様々な授業体験や行事などの異学年交流を通して、互いの良さを学び、認め合い、関わりを重ねることで子どもたち同士の繋がりが深まっていると感じています。

